

**幸田露伴** 小説家。読売新聞で紅葉と人気を二分、「五重塔」で文名を確立したが、以後は史伝、考証的なものに終始。

こうだろはん

大政奉還・・・1867 = 江戸の、代々幕府に仕えて有職故実にかかわったお坊主衆の家に生まれた。\_兄に千島探検家の郡司成忠、弟に歴史家の幸田成友、妹に音楽家の幸田延、安藤幸がいる。

明治維新・・・1868 = 1歳：

明治6年政変 1873 = 6歳：

三つの反乱・1876 = 9歳：

少年時から和漢の諸書を耽読し、独自の教養世界の土壌を培った。

明治14年政変 1881 = 14歳：

電信修技学校に学び、

内閣発足・・・1885 = 18歳：

\_技手として北海道に赴任するが、文学への思いやみがたく、

国民之友始・・・1887 = 20歳：\_職を放棄して東京へ帰り、尾崎紅葉らと交わりながら創作活動を開始、

帝国憲法発布 1889 = 22歳：\*「露団々」「風流伝」によって新進作家デビュー、{読売新聞}にも入社した紅葉と人気を二分する。

帝国議会始・・・1890 = 23歳：\_その後も精力的に執筆を続け、「対偶體」「一口剣」などの短編、{読売新聞}を退き、{国会新聞社}に入社。

足尾鉞毒始・・・1891 = 24歳：\_「いさなとり」などの長編を発表したが、

大本教・・・1892 = 25歳：\*中編「五重塔」によって、文名はゆるぎないものとなる。

郡司千島探検 1893 = 26歳：「風流微塵蔵」や、

日清戦争始・・・1894 = 27歳：

田中正造直訴 1901 = 34歳：間で「一国の首都」のような都市論も書く。

日比谷公園・・・1903 = 36歳：\*「天うつ浪」のような注目すべき長編を書いたが、いずれも未完に終わって、小説から遠ざかり、

日露戦争終・・・1905 = 38歳：

\_エッセー、考証、古典の校訂解題といった仕事が重なり、

京都大学講師も務め、その博識には敬意を払われたが、\_小説家としては第一線を離れたとみなされ、

明治天皇没・・・1912 = 45歳：

ハルビン条約・・・1919 = 52歳：\_「運命」を発表したときは大きな驚嘆を呼び起こしたが、

大暴落・・・1920 = 53歳：\_「平将門」などと同様、小説というより史伝というほうが似つかわしい。

原敬首相暗殺 1921 = 54歳：

護憲三派圧勝 1924 = 57歳：「冬の日抄」(芭蕉七部集評釈)、

海軍軍縮条約 1930 = 63歳：

満州事変・・・1931 = 64歳：

日中戦争始・・・1937 = 70歳：\_第1回文化勲章受章。晩年も「芭蕉七部集」の評釈を中心とした考証的な仕事為主で、

健保+総動員 1938 = 71歳：「幻談」、

第二次大戦始 1939 = 72歳：

大政翼賛会・・・1940 = 73歳：\_考証的な仕事ながら傑作の「連環記」などを遺して、

日米開戦・・・1941 = 74歳：

敗戦・・・1945 = 78歳：

新憲法施行・・・1947 = 80歳：\_没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、